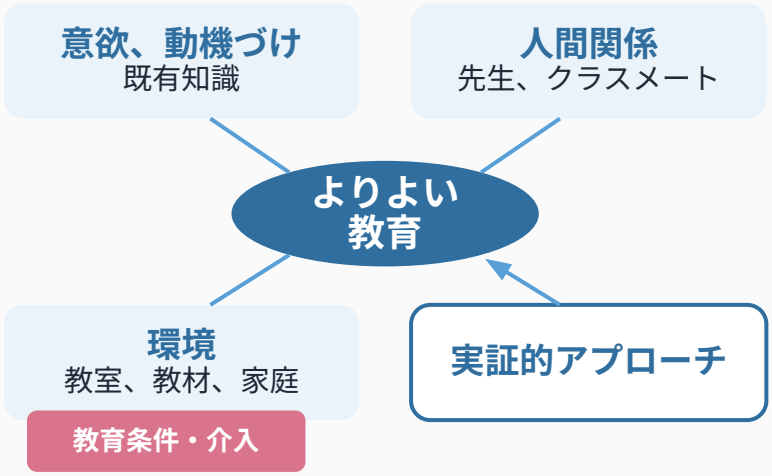


教育心理学とはどのような学問か？

教育心理学とは

一人一人にとってよいのありかたを実証的な方法で教育明らかにすることを目指す学問



主な研究内容

1. 指導方法、教材などの介入や教室などの教育条件が学習者に与える効果
2. 学習者のまわりの人々が、学習環境や学習者の行動に与える影響
3. 意欲、動機づけ、既有知識などの学習を内面的に支える仕組み

研究対象と方法

扱う要因	学力だけでなく学力以外の要因も幅広く
研究の対象	学校内で起こる事象に限らず、身近な日常的な現象全般
研究方法	質問紙調査やテストだけでなく、測定機器を活用した計測など多様な調査方法
対象者	学習者だけでなく、教育を行う教師や先生も

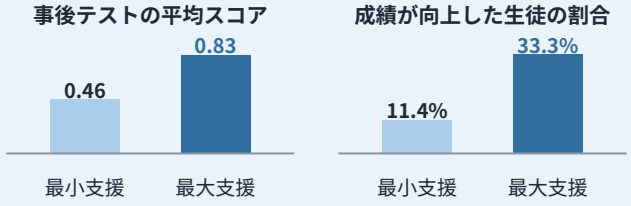
最近の特に興味深い研究

協調的問題解決能力育成のための支援

実験の目的
「しっかり手厚いヒント（最大スキャフォールド）がある環境」と「最小限のヒントしかない環境（最小スキャフォールド）」の2パターンで、生徒同士が協力して課題を解決するときの議論や助け合いの様子を分析するため。

スキャフォールドとは
学習者が自力で達成できない課題に対して一時的な支援を提供し、段階的に自立を促す教育手法

対象と方法
対象：中学2年生78名
方法：三人一組になり、オンラインビデオ会議を通じて数学の問題に取り組んだ。

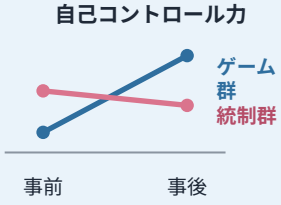


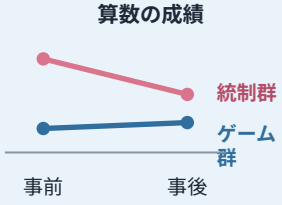
結果
・しっかり手厚いヒント（最大スキャフォールド）は成績向上には効果的だが、自発的な議論を阻害する。
・最小限のヒント（最小スキャフォールド）は自由な議論を促すが、学習効果が低く脱線しやすい。

ボードゲームが小学生に与える効果の実験

目的と方法
問い：授業でボードゲームをやると、集中力・感情のコントロール力・テストの成績は良くなるか
対象：小学生（4.5年生）150人
方法：週２回×10週間、ゲーム後に「自分の行動を振り返る話し合い」「テスト」を実施する。

結果
・学校での行動：ボードゲームをやった子は、自分をコントロールする力が改善された。
・精神力＆成績：嫌なことがあっても立ち直る「レジリエンス」が向上し、算数や国語の成績低下を妨げた。





結論
・ボードゲームは、子供の成績や行動の「落ち込み」を防ぐ緩衝材になった。
・ルールを守る、順番を守る、負けても切り替える練習が自分自身をコントロールする力につながった。

Wong, K., Bulathwela, S., & Cukurova, M. (2026). Towards an adaptive AI scaffold for developing student collaborative problem solving. *Learning and Instruction, 105*, 102418.

Cravet, E. & Usai, M. C. (2026). Using board games as a protective tool: Effects on cognitive, social, emotional, behavioural outcomes, and learning. *Learning and Instruction, 105*, 102415.